

# SUPER 耐久シリーズ 2013

## 第4戦

### 富士スピードウェイ



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

人間にもマシンにも超過酷な真夏の灼熱7時間！！

完走はするも大きな課題の残る富士ラウンド！！

- ・開催サーキット：富士スピードウェイ（4.563km）
- ・チーム：TRACY with KOTA RACING
- ・マシン：TRACY SPORTS IS 350
- ・メンテナンス：TRACY SPORTS
- ・カーナンバー：#39
- ・クラス：ST-3
- ・ドライバー：A 兵頭 信一 B 佐々木 孝太  
C 東 徹次郎 D 橋本 達也



## 予選（8月10日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

A・Bドライバーの合算タイムでグリッドの決まる SUPER 耐久。  
今回も自分は C ドライバーの為、自分の予選のときはガソリンを満タンに積み込み、決勝を想定したシュミレーションをやりました。

今回はレースウィークからマシンバランスに悩んでいた為、この予選でもそれぞれのドライバーで微調整を加えながらいろいろなパターンを試していました。

自分の予選では更に前日も履いて 35 ラップほど走っていたタイヤでコースイン。フィーリングはガソリンの重量の影響もあり、基本的にはずっとレースウィーク悩み続けているアンダーステアで、それが前日最後に乗ったときよりはひどく感じられました。

最後にピットでより状態の良いタイヤに交換してコースインしたのですが、そのときはタイヤなりのグリップ向上は感じることは出来ていましたが、残り時間が無くタイム計測は出来ませんでした。

しかし、最初のタイヤの状態では 56 秒台ではラップ出来そうな感じでしたので、タイヤの良い最後の状態が計測出来ていたら、もうちょっとタイムアップ出来そうな手応えはありました。

A ドライバーの兵頭選手は目標タイムの 55 秒 3 を上回る 55 秒 0、そして佐々木選手は 53 秒 7 でクラス 3 位、合算で決勝は 5 位からのスタートとなりました。

D ドライバーの橋本選手も今回決勝は走らないものの、重い状態で 58 秒台を記録、足回りのコメントも聞けて決勝に向けてのセットを考える上でも良い予選となりました。

**A ドライバー予選タイム：1'55.098 総合 23 位（クラス 8 位）**

**B ドライバー予選タイム：1'53.727 総合 17 位（クラス 3 位）**

**C ドライバー予選タイム：1'56.605 総合 20 位（クラス 7 位）**

**D ドライバー予選タイム：1'58.141 総合 10 位（クラス 4 位）**

## 決勝（8月11日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回は真夏の7時間ということもあり、非常にタフなレースとなりました。レースウィークもずっと晴天に恵まれ、気温も35度を超える中での決勝となります。

今回の朝のフリー走行は佐々木選手と兵頭選手が走行し、予選からミーティングをして、またマシンのセットアップを変更していたので、その確認をしてもらいました。

フィーリングは良いとのことだったので、決勝はこのセットでいくことに。

作戦としてはスタートの兵頭選手が1時間の走行、そして佐々木選手と自分が1時間半の走行を交互に2回ということになりました。

11時にスタートした決勝レース、朝のフリー走行からまた更に気温も上がり、路面温度もかなり高くなったせいか、兵頭選手からのインフォメーションだとマシンはやはりアンダーステアとのこと。

しかしトラブルなどは無く途中でセーフティーカーも入ったので予定より少し多く走行し、佐々木選手へと交代。

5位、6位辺りでの走行が続きます。

少しリアのABSがおかしいかもという無線はあったものの、順調に走行が続き、スタートから約2時間半を経過したところで予定通り自分の出番です。

右のタイヤはまだ行けるという佐々木選手のインフォメーションから、ピットストップの時間を短縮する意味もあって自分の交代のときは左サイドのタイヤだけNEWに交換しました。

コースインするとこのバランスが思ったより悪く、ガソリンもフル満タンで重いので左コーナーのアンダーオーバーがキツイ状態でした。

更に前日走ったときよりリアのバネレートを下げていたので、余計に沈み込みも激しく車の動きが大きくなってしまっていてアクセルもなかなか開けていけない感じでした。

10ラップくらいしたら少し軽くなってきたのもあって左右のバランスは落ち着きましたが、それでもペースがなかなか上がらない状況に苦しみました。

このステイントの後半に入ると空が暗くなり雷も見えるようになってきて、コースの前半部分だけ雨が落ちてきたり、後半部分で落ちてきたりという怪しい空模様。

もう少し持ちこたえられたらピットのタイミングも雨と合ったのですが、ガソリンの残量も無かったのとこのタイミングで一度雨が止んだので、ピットへ戻

り佐々木選手と交代します。

そして佐々木選手が出て行って数ラップ後に、まさかの豪雨・・・。  
うちのマシンは更にフロントガラスが曇って前が見えない非常に危険な状態になり、何とか佐々木選手はピットへ戻ってきます。

ここでレインタイヤに交換し、佐々木選手のままコースへ戻ります。  
雨でのフィーリングも今回悪かったようで、思いのほかペースが上がりません。そして予定では佐々木選手が1時間半行く予定でしたが、雨が上がって今度は急速に路面が乾いてきたので、スリックに交換するタイミングでドライバーチェンジ。

自分が乗り込んで残り1時間半を行くこととなります。

今回は4本タイヤ交換したので、走り始めから先ほどよりバランス良く感じました

やはり最後のスティントともなると、マシンにも影響は出てきます。  
アライメントが狂ったのかステアリングが先ほどより更に左に曲がっていて、ABSの方もよりリアのロックするのがひどくなってきていました。  
そして走り始めのバランスは2本交換のときよりは良く感じたものの、基本的には曲がりづらく、荷重を乗せるとリアが逃げてしまうので、特にヘアピンの進入や後半の低速セクションなどはボトムスピードを落として走らないといけない状態で、周りがタイムアップしていく中で非常に苦しい展開でした。  
最終コーナーも遅いのでストレートも伸びず、コカコーラコーナーもフロントを入れるのに意識しすぎるとリアが不安定になってオーバーランという悪循環・・・。

ピットからも無線でプッシュを言われていたのですが、周りが54秒や55秒台に入っていく中で、自分は58秒後半から59秒前半のペースが限界でした・・・。  
金曜までの練習でもこんなに周りタイム差無かっただけに本当に苦しい決勝の走りとなります・・・。

結局、ペースの上がない自分はレース終盤に2台に抜かれ、完走はしたものの7位という内容の非常に悪いレースとなってしまいました。

レース後にわかったのですが、特にペースが上がらなかった原因は右リアのアームが緩んで、大幅にアライメントが狂ってしまっていたせいでした。  
このせいでストレートも伸びず、コーナー進入から出口まで終始不安定な動きだったのです。

決勝結果：クラス 7 位 (201Laps)

A : 30Laps    B:77Laps    **C : 94Laps**    D:0Laps

39 号車ベストタイム : 1'57.077 (**1'58.869**)

ST-3 クラスファーストテストラップ : 1'54.724



## 反省

今回は7時間ということもあって、このマシンもそんな長時間走るのは初めてですし、自分にとっても初のロングラン2ステイントを担当させていただきました。

猛暑の中、非常に疲れはしましたが問題無く走行出来たことは自分の体力の確認も出来て自信になりました。

ただ、今回マシンの挙動や詳細を伝える‘コメント’の難しさを改めて感じ、非常に勉強になったレースでした。

まだまだマシンを良くしていかなければなりませんし、このコメント次第でマシンの方向性も変わってきてしまうので、今回の経験を次回に活かしていきたいと思います。

そして後半戦に向けて、みんなでマシンを良い方向に仕上げているよう頑張ります。

ドライビングの面でも、今回のような急な路面変化やマシンの乗りづらいときなど、より器用に合わせて走れるようにならなきゃいけないと感じました。



## 最後に

今回は猛暑の中、たくさんの方々に応援に来て頂いて本当に有難うございました。

真夏の7時間という過酷なレースは、見ている方々にも本当に過酷だったと感じます。

今回完走はしたもののレースウィークからなかなかマシンバランスを改善出来ず、レース自体もトラブルもあって厳しいものとなりました。結果を残すことが出来ず本当に悔しいのですが、完走したからこそいろいろ見えてきた課題もあるので、それをしっかりと活かして次戦に繋げていきたいと思えます。

いよいよ次の岡山ラウンドからは後半戦に突入していきます。

自分は岡山ラウンドは走らず、今のところ決まっているのは最終戦の九州オートポリスです。

今回の富士でチームの結束力もより高まっていますので、後半戦は必ず巻き返していきたいと思えます。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2013年8月14日

東 徹次郎

